

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 3 月 26 日 (2009.3.26)

【公表番号】特表 2008-528761 (P2008-528761A)

【公表日】平成 20 年 7 月 31 日 (2008.7.31)

【年通号数】公開・登録公報 2008-030

【出願番号】特願 2007-553231 (P2007-553231)

【国際特許分類】

C 0 8 B 37/16 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/724 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 B 37/16

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/724

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 1 月 23 日 (2009.1.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

本発明のこの観点による方法において、化合物の投与は任意の好適な経路で行うことができ、これには限定なく、非経口、経口、舌下、経皮、局所、鼻腔内、エアロゾル、眼内、気管内、直腸内または膈内を含む。治療組成物の投与は、既知の手順と用量で、感染の症状または代理マーカーを低減させるのに有効な時間、行うことができる。医師は、投与するのに適切な用量、または細菌感染症を予防もしくは処置するのに有用な治療プロトコルを決定することができる。同時にまたは順番に、本発明の 1 種または 2 種以上の治療組成物の治療的に有効な量を、単一の処置エピソードとして個人に投与することが望ましい場合もある。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

本発明のこの観点による方法において、化合物の投与は任意の好適な経路で行うことができ、これには限定なく、非経口、経口、舌下、経皮、局所、鼻腔内、エアロゾル、眼内、気管内、直腸内または膈内を含む。治療組成物の投与は、既知の手順と用量で、感染の症状または代理マーカーを低減するのに有効な時間、行うことができる。医師は、投与する適切な用量、または細菌感染症を予防もしくは処置するのに有用な治療プロトコルを決定することができる。同時にまたは順番に、本発明の 1 種または 2 種以上の治療組成物の治療的に有効な量を、単一の処置エピソードとして個人に投与することが望ましい場合も

ある。